

空海と八咫鳥と丹生都比売(和歌山と白山をつなぐ旅)



空海は、叡知と行動力で人々を導いた、歴史的偉人

自身とは、時代もレベルも大きくかけ離れた、ただ憧れの存在でした^^

ある日、「空海」という名前を耳にして、何気なく意識を向けてみると、あれっ？

まるで親友や家族のような、なんとも言えない温かい思いが、胸いっぱい溢れ、じ~んとします
この気持ちは何——？魂の世界では、皆が一つにつながっている…何か今、私に伝えたい思いがあるのかも？

急に、高野山(和歌山県)に行ってみたくなりました

私が最近特にフォーカスしていたのは、**新 G(WBH) = ニュー・グレート・ホワイト・ブラザー・フード！！**でした

宇宙創始からの最も古くて、そして最も新しい(=中今、今ここに、過去も未来も全てがある)

宇宙の進化をサポートするマスター集団！弘法大師空海は、その“新 G”メンバーの一人なのでは？と^^



新 G イメージ画像

そういえば、是非一度見てみたいと思っていた“那智の滝”があるのも和歌山県でした
熊野那智大社は、熊野三山(他に本宮大社、速玉大社)の一つであり、カラスさん(八咫鳥)で知られる場所です

前回のコンテンツ(七夕神事)の最後に追記しましたが

7月6日の朝、交差点の真ん中で三羽のカラスさんに囲まれる…という出来事がありました
信号待ちをしている目の前、ビュンビュン車が通りすぎていく路上を、カラスさんが悠々と歩いています？

「危ないよ～、早く逃げて～」冷や冷やして見ていると、信号が青に変わったので、ゆっくりと車を発進させました
えっ？私。。。三羽のカラスさんがまわりつくように車を囲み、身動きがとれません(*_*)

「お願いだから道を開けて」と焦っていると、しばらくして、三羽同時に飛び去ってしまいました？？

車の波をもろともしない姿に、強い意志のようなものを感じていましたが

カラスさんは私に、何かを伝えようとしていた。。。そう思えて仕方ありません、そのタイミングで高野山、那智の滝、
熊野三山へとつながり、もう行ってみるしかない！心が決まりました^^

八咫鳥は、太陽(天照神界)の使者！長い歴史の中で、常に日本の行く末を見守り

その核心である大調和の心(大和魂)、^{セントラル・サン・システム}“究極の愛の太陽道”を守護し続けてきた、影の部隊——

天火明命は、古代、熊野の地を治めた熊野国造家の祖神です。

天火明命の息子である高倉下は神武東征に際し、熊野で初代神武天皇に天剣「布都御魂」を献じてお迎えしました。

時を併せて高御産巢日神は、天より八咫鳥を遣わし、神武天皇を大和の橿原まで導かれました。

(熊野本宮大社ホームページより)

神武天皇は、神功(神宮)皇后と共に、太陽(=日本)神界をはじめて地上に降ろし、日本という国を創った

太陽神の男性性の現れであり、八咫鳥はその神武天皇を支え導いた、太陽神界の使者です

最初は、高野山だけの予定でしたが、那智の滝、熊野三山、丹生都比売神社へと、ワクワクがどんどん広がっていききました^^

自身は何気ない思い付きで、フアリと出かけてしまうので、いつも一人旅です

“ワクワク”とは、真の自己=魂の躍動！ちつぱけな肉体(地上セルフ)を囲んでいる、大きな世界のざわめき？とでもいうか

その時自身が共鳴している波動(エネルギー)の振幅、高揚感のようなものを、言葉にした感じです

そこは、∞に共鳴・拡大していく意識の大海原であり、“宇宙”そのものといえるのではないのでしょうか？^^

今、地上セルフに想像できることは、創造できる事！

想像(3D、地上セルフ) = 創造(5D、ハイアーセルフ)でもあるので、創造できない事は一切、想像も出来ないはず

地球、太陽系、銀河系が揃ってアセンション(次元上昇)するといわれる、奇跡としか思えない中今

意識の枠(限界)を外す事によって、ハイアーセルフを窓口として、自己につながる宇宙大のネットワークとその∞パワーが

地上セルフをポータルとして、この地球に顕現することを可能にします！(宇宙史を通して、私達はその準備をして来た…)

神々、全宇宙高次との協働創造の為に、全てを地上セルフに統合した“神人”の使命なのだと思います^^

高野山について調べてみると、その前に是非訪れたい場所として浮かんだのが

“^{にうつりめいじや}丹生都比売神社”という、初めて耳にする名前の神社です

空海は、山上大伽藍に丹生都比売大神の御社を建て、守護神として祀り、真言密教の総本山高野山を開いたとされ

これが日本における「神道と仏教の融合」の始まりとの事です

ユネスコは、神道と仏教の融合をユニーク(他に類がない)と評価し、平成16年、世界遺産に登録されています

神社ホームページによると、御祭神の丹生都比売は、弘法大師空海に高野山を授けた女神で

「伊勢神宮に祀られる天照大御神の妹神で、稚日女尊(わかひるめのみこと)とも申し上げる。」とあります

稚日女尊は、天照大神の幼少の御姿とも言われ、日(太陽)の本“日本”の、神の子である私達自身の姿でもあります

自己の中で、今回の旅の全てが繋がった！“マル”に、“テン”が入った！！と感じました^^

“マル”は、全体を表し、“テン”は、その中心、核の意です

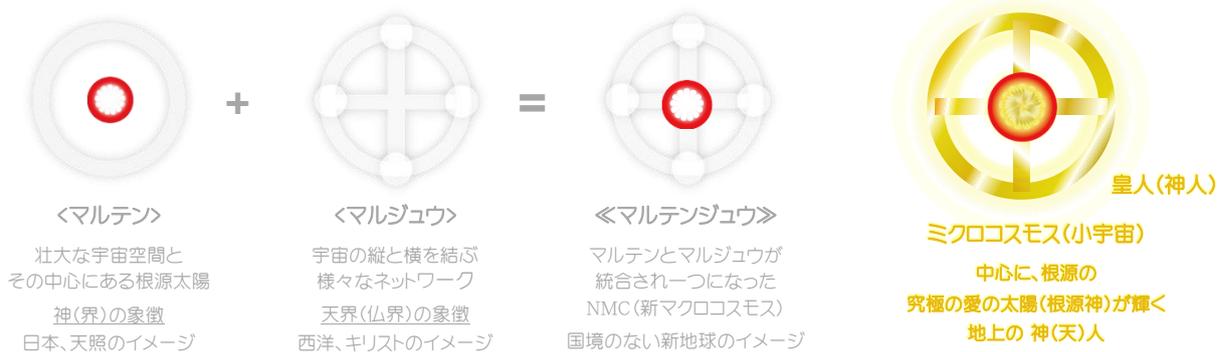
自身が感じる中今の新G(WBH) = ニュー・グレート・ホワイト・ブラザー・フット® を表現したのが、冒頭の画像ですが

その中心には、根源太陽を核とした“マルテンジュウ”が描かれています



画像の説明、中今、自身が想像する宇宙についてです(言葉にならないものを、無理やり言葉にしている感じも？ですが、笑)

宇宙は、∞の創造の力をもつ神(神界)なるものによって創造され、その神の使者、働き手が天界です
 天界の存在としては、西洋ではスピリチュアル・ハイラーキーや大天使等
 日本人に親しみ深い仏教では、如来や菩薩、明王等と呼ばれる存在があげられます
 全てはエネルギーであり、私達人が万能の神の様々な働きを識別するための、一つの目印のようなものなのだと思います
 地上の人と、神々をつないでいるのが天界(仏界)の存在でもあり、次元(波動)が高く
 私には全く手のとどかない、雲の上の存在。。。というのが、自身のこれまでの考え方でした——、が
 アセンションを学ぶようになって=意識の進化・拡大によって、もっと大きな視点で捉えることが出来るようになりました^^
 それが、自身にとっての謎であり、テーマでもあった“神人”へとつながりました！
 神人とは、真には、神・(天)・人であり、神界、天界(仏界)、地上界(人間界)の全てを、地上の人に統合した
 真の“神の子”であり、今はじまっている NMC(新宇宙)創成の地上部隊です^^
 人類は何度もアセンション(次元上昇)に失敗していると言われますが、この度のアセンションは
 “地球”という惑星と共にアセンションする=(地上を去った後に、ではなく)身体を保持したままでアセンションするという
 史上初の、スペシャルなものであり、その大きな役割を担うのが、人であり神である“神人”と呼ばれる存在?!
 そこには、天界の全ても統合されていて、まるで、“大宇宙の縮図”です(人類は、宇宙の多種多様な DNA を持つといわれます)
 地球は、神が宇宙の雛形として創造した“特別な星”と言われる理由と秘密が、ここにあるのではないのでしょうか?
 “神”とは、私にとって、宇宙を創造した絶対者という概念ではなく、創造の源のエネルギー=“究極の愛”と表現される
 一なる根源、すべての命の源(究極の母性)であり、人の本質(分御魂)
 なにもものでもあり、なにもものでもないもの——、です^^
 宇宙をシンプルな図で表すと



人には、ビックリ仰天?!の、∞の可能性ががあります!!
 頭を一旦空っぽにすると(=ゼロポイント)、新しい、何かが始まっていくのでは?^^
 新Gは、天界の存在ですが、中心は根源太陽神とつながっていて、根源神界の中核スタッフのような感じ?!
 全ての創造のはじまり=神界の真っ白な光子(光子)のパワーと
 そこから生まれる∞の光線(波動)、ミロク(弥勒)の光を放つ、宇宙進化の先導部隊、最強のマスター集団!
 白の背景に、白の光(光線)を描くのは、私の技術では無理(笑)なので、鮮烈、クリアな感じが表現できず残念なのですが
 マルテンジュウの回りに描いた円は光子(光子)の、線は波動(光線)の、∞のパワー(広がり)を表しています^^
 新Gは、私達新人類(神人類)を、常に陰から支え、その目覚めの時を、ずっとずっと待ち続けてきた——その時が来た!
 あっ、「新G」は「しんじー」?!もしかして「ん」隠してましたか?笑。。。 ※神界は“お笑い”の世界なのだそうです^^)

(え~、丹生都比売神社のお話へと戻ります)

丹生都比売神社がある天野の地は、交通の便が今一つの場所で、どうしても無駄に時間が削られてしまう気がします…
 なので、思い切ってその懐に飛び込む事にしました!
 なんと、一泊二日だった予定を、二泊三日に延長し、一度は見ないフリをした(笑)、近隣の素敵な宿を予約したのです
 (いつも一人で出かける時は、ビジネスホテルとコンビニ弁当です^^)

地元で取れるおいしい食材を使った豪華な料理と、香しい木に囲まれた、贅沢すぎる大きな部屋。。。

今夜はフリータイム!神(界)も仏(界)も、宇宙人さんも、みんな二二に集まれ~!

眠ってしまうのがもったいなくて、テラスで星空を見上げ、深い感謝と祈りを捧げました

あらゆるすべてが、今ここに一つ…

私などどこにもなく、同時に、私でないものなど、何ひとつない——

日本列島の縦軸？白山と紀州をつなぐ今回の旅の、もっとも静かで核心的なひと時であったかもしれません^^

9月3日第一日目は、朝4時30分に自宅を出発！

9月1日に、“白山比咩神社”と“大野湊神社”に参拝し、出発のご挨拶をしました^^

大分日が短くなってきたので、白山さんは薄暗い中での参拝となりましたが、何故か空がブルー？

天界、西洋(ユダヤ、イザナミ)、(旧)GWBHのイメージ

大野湊神社は、繊細なフオトンの雨のような白。。。神界、東洋(日本、イザナギ)のイメージです

とても大きな陰と陽の型、二極の統合が、テーマとして浮かんできました

雨は、龍神さんを連想させます^^



白山比咩神社



大野湊神社

その一月前の事になりますが、大野湊神社近くの池で、何者？かを感じていました。。。



肉眼では何も見えず、嫌な感じもなかったのですが、ボコボコボコと言う、水中で何か息をしているかのような音と

足元がブクブクと沈んで、池に吸い込まれていく？ような感じがして、思わず後ずさりをしてしまいました

撮った写真をみると、ちょっと気持ち悪い…、黒い点々のようなものが多数、水面に浮かび上がっているように見えます

何かしら。。。と思っていたのですが

那智の滝に行く事を決め、動画を見た時、最初に感じたのが“白龍”さんの姿で

もしかして、こちらは“黒龍”さんなのでは？と。。。“黒龍”は“九頭龍”でもあり、白山の守護神と言われます

天地創造の時、地上を修理固成したのは、“国常立大神”をはじめとする、たくさんの龍神達とされていて

今再びその龍神界が、大きく動いているのかもしれない^^

石川から名古屋を經由して、最初に熊野三山の中心、熊野本宮大社を訪れました
バスを降りて向かったのは、^{おおゆのはら}“大齋原”です



第十代崇神天皇の御代、旧社地大齋原の櫟の巨木に、^{いらい}三体の月が降臨しました。
天火明命の孫に当たる熊野連は、これを不思議に思い
「天高くにあるはずの月が、どうしてこのような低いところに降りてこられたのですか」と尋ねました。
すると真ん中にある月が「我は證誠大権現(家都美御子大神=素戔鳴尊)であり、
両側の月は両所権現(熊野夫須美大神・速玉之男大神)である。社殿を創って齋き祀れ」とお答えになりました。
この神勅により、熊野本宮大社の社殿が大齋原に創建されたと云われています。

熊野三山のはじまりの地であり、大自然(神)と人、天(宇宙)と地(地球)をつなぐゲート、滑走路のようにも見えます
黒=カラスさんのイメージの門(鳥居)で、永く暗い夜の時代、闇の世界を照らす明かりの象徴が
三体の月(神々)であった、とも言えるのではないのでしょうか



「今、甦り(黄泉がえり?)の時」との文言が印象的です^^



(本殿は撮影禁止となっています)

熊野本宮大社の主祭神は、^{けつみみこのおおみこと} “家都美御子大神=素戔鳴尊”

素戔鳴尊は、地球神である国常立大神の龍体エネルギーとも言われ、莫大なパワーを持つ黒龍さんでもあるのでは？

まさに今、蘇りの時！新地球創成の原動力なのではないでしょうか^^

旧 GWBH の中心は男性性(理)の象徴でもある“素戔鳴神”でしたが、“天照神”(愛、女性性の象徴)の時代へとシフトし

中今、“根源天照皇太神”(根源太陽、究極の母性性)へと進化・統合してきているのだと思います(^^)v

次に向かったのは、熊野速玉大社



主祭神は、^{くまのはやたまのおおみこと} “熊野速玉大神”・^{くまのふすみのおおみこと} “熊野夫須美大神” の二神です

私は今回初めて知ったのですが

熊野速玉大神は伊邪那岐神、熊野夫須美大神は伊邪那美神の別名との事です^^

本殿で感じたのは、仲良し！

男性性と女性性の統合による、明るい未来の展望です



伊邪那岐・伊邪那美大神は白山さんご祭神でもあり、こちらでお会い出来た事を嬉しく思います^^

白山比咩神社の、もう一柱のご祭神“**菊理姫**”は

伊邪那岐大神・伊邪那美大神(が象徴する様々な二極)をくぐり

旧世界(旧宇宙)から新世界(新宇宙)へのシフト！という、大きなミッションを担う“**根源太陽の御子**”！！

夜から昼へ、月の時代から太陽の時代へと、時代は大きくシフトしました！

菊理姫

N.GWBH
New. Great White Brotherhood

これで一日目は終了、紀伊勝浦駅近くにある宿泊場所へと移動しました

楽しかったけど、なんだか疲れちゃった。。。というのが、今日一日の正直な気持ちです

気付くと、あれやこれやと、過去のネガティブな感情が浮かび上がってきて、とらわれている…モヤモヤしている…

という感じで、もしかしたらこれまでの自己の地球史の、フラッシュバック？なのかもしれません

でも、何度も何度も通り抜けてきた道、そして強くなった！

世界は今混沌としていて、人災・天災を問わず、何が起こるか分からないという不安で一杯(実は映画^^)とも言えますが

新たな、大いなる創造の為の破壊であり、必ず道は開ける！何故なら、神々(宇宙高次)は大愛であり

人は常にその愛の中に生きてきた…私達が経験したことは、私達自身が、成長(進化<神化)の為に選択した道

何もかもわからなくなってしまったとしても、自己の核心(確信) = “**愛**”がある！愛だけを見て、選択し、進む！！

明日はきっと、もっと素晴らしい一日になる！那智の滝へGO——！！！！^^

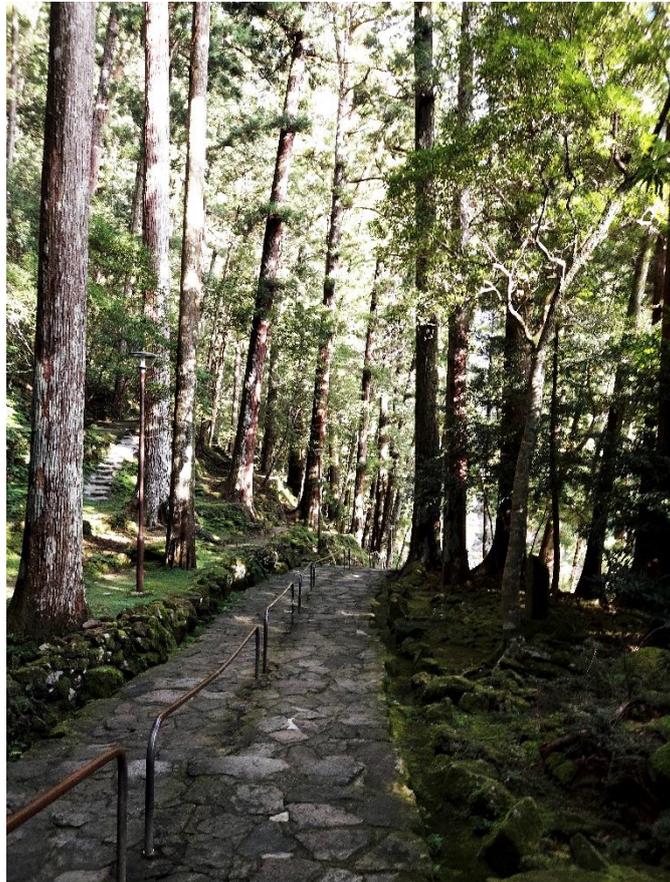
9月4日(二日目)は、“那智の滝”からはじまりました！
宿からバスで20分ちよつとの所、那智の滝、飛瀧神社へと向かう鳥居の前です^^



ズン！

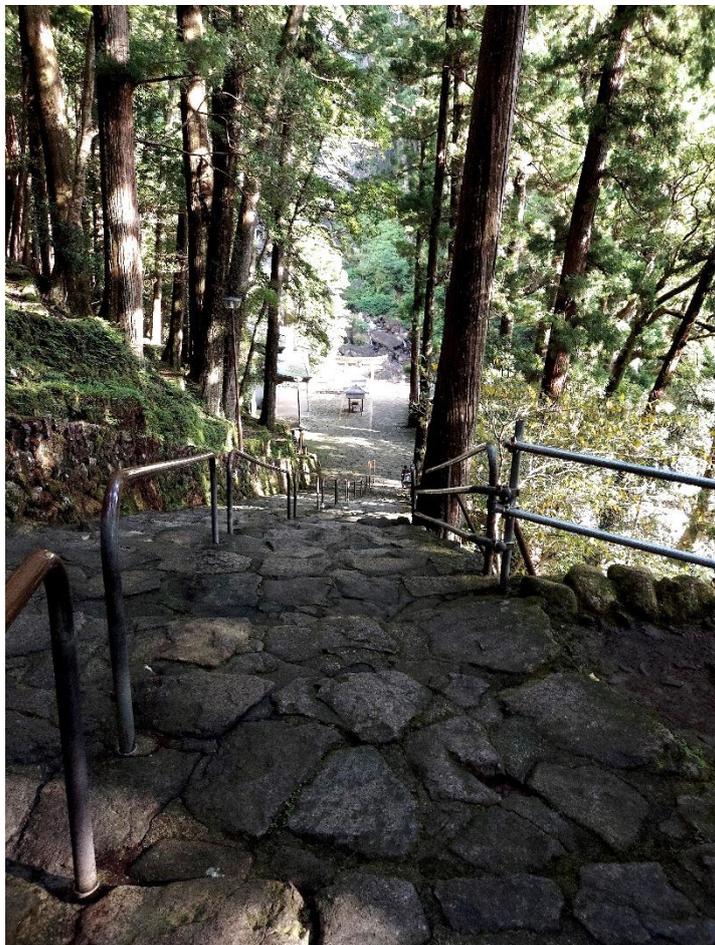


ズン！！





ワクワク～



吹き上る風の清しさ！(爽)・快・感！！



見えてきました^^



ひやあ〜

根源の、美しく、眩しい光の流^{りゅう}、真っ白なフオンの水しぶき！

神聖なる、白龍さんの御姿——

先日ブログにて動画をアップしました

どうしても動くエネルギーを、そのままお届けしたかったからです^^

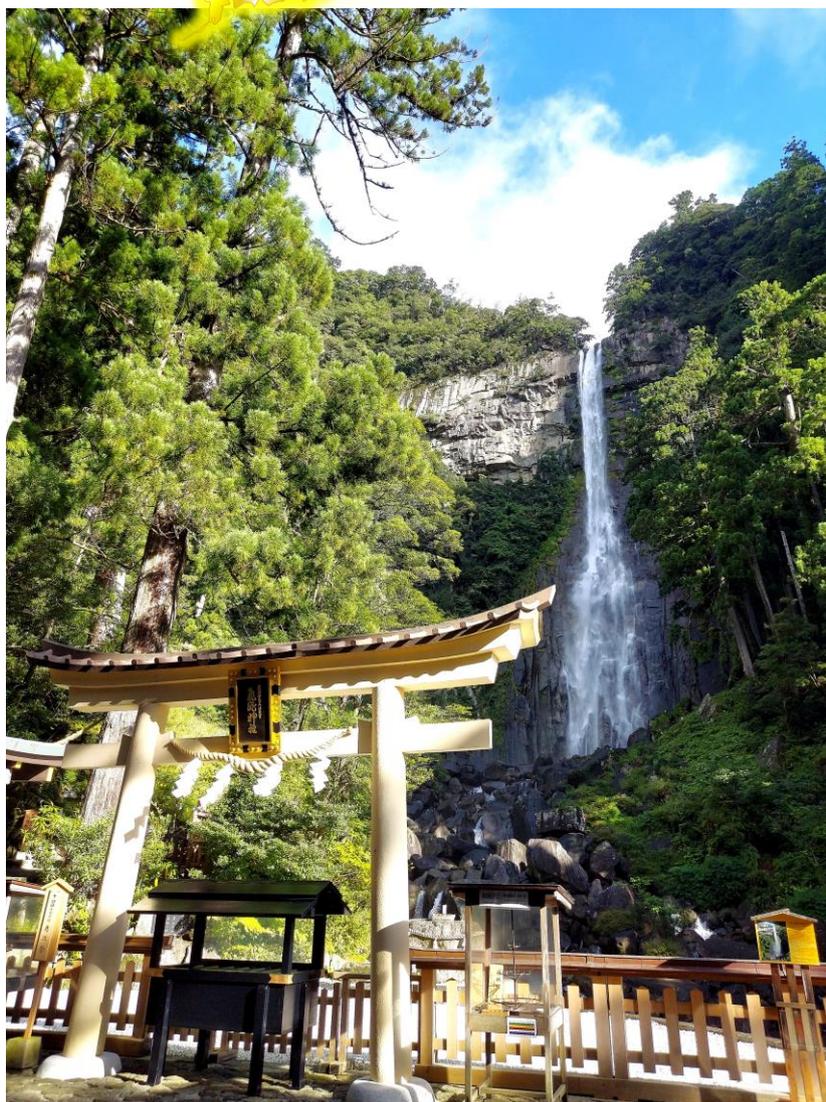
一羽の白い鳥さんが、すばらしい演出？をしてくれました

滝の左手下方から現れて、流れとクロスするように、右手上方へと飛び立っていくという

素敵なサプライズ？！でした

日本列島の縦軸と横軸がクロスし、統合されていくイメージが浮かびました

“飛龍神”とは、飛び立つ“黄金龍神(日の本龍体)”であり、地球をアセンションへと導く“天の鳥船”なのでは？^^



心地よくて、いつまでもここにいたい(場と一体化している)…でしたが、那智大社の方へと向かいました

那智には、熊野那智大社 = 神社と、那智山青岸渡寺^{せいがん と じ} = 寺院の二つが共にあり

明治の廃仏毀釈によって、ほとんど見られなくなってしまったとされる、神仏習合の姿をそのままにしています

地元石川県に、自身にとって、もう一つの故郷？とも感じられる“那谷寺^{なたでら}”という

白山開山の祖“泰澄大師”によって開かれた聖地があります

本殿は岩屋(洞窟)で、自然智^{じねんち}(自然こそ神仏)の教えが大切に守り伝えられていて

境内には、菊理姫を御祭神とする若宮白山神社があり、こちらも神仏習合の地と言われています



左上は展望台から見下ろした、紅葉の頃的那谷寺です
中心に見えるのは、奇岩遊仙郷(海底噴火の跡、永い年月の間風と波に洗われて出来た奇岩)
右下は本殿の入口へと上る石段で、奥は洞窟となっています^^

あつ?! 那谷寺は高野山真言宗です!
なんとなく空海の奥に、もうひと方? 別の存在がいるのでは。。。と感じていたのですが
もしかしたら、泰澄大師?! ^^
那谷寺は、寛和2年(986年)花山法皇が行幸の折り、岩窟で輝く観音三十三身の姿を感じ
求むる観音霊場三十三カ所はすべてこの山に凝縮されるとし
西国三十三所観音霊場第1番札所である、ここ“那智山青岸渡寺”と
第33番満願霊場“谷汲山華嚴寺”(たにぐみさん けごんじ)の、両方の頭文字をとって付けた名前とされます
岐阜県にある華嚴寺には、2017年10月、養老の滝と共に訪れていて
その時のコンテンツのタイトルがこちらです



自身のコンテンツは、その時々感じた事をそのまま書いて(忘れてしまっていることも多い…)、今一度見直してみました^^
華嚴寺のご本尊は十一面観音(月の象徴)ですが、撮った写真には真っ赤な太陽(大日如来?)が写っていて
菩薩から如来へ、月の時代から太陽の時代への大なる変遷!を描きたかったようです(笑)

泰澄大師の開いた那谷寺には月の時代、様々な姿となって衆生を救い導いてきた、観音菩薩三十三身全てがある！

那智の滝で修業をされたという花山法皇が、そこに(那谷寺)みたものではないでしょうか^^

観音は、間脳でもあり、宇宙の全ての音、響きを受信する器官 = 感応力の事でもあるのだと思います
対象との一体化、共感は、善悪を越えた、あらゆる全てに対する無条件の愛のはじまりであり、根源の愛そのものです
仏とは、“根源の愛”の叡知である事を、泰澄大師は伝えたかった。。。そのように感じられます

青岸渡寺は、愛の観音霊場一番手！新たなはじまり、スタート地点に立った気分です^^



中心にあるのは、黄金の菊(根源の愛)のエネルギー？^^

裏手の方に、大黒天を中心として七福神が祀られた大黒天堂があり、行ってみました



とても華やかな現生的パワーを感じて、珍しく、「私にもその力を下さい！」と、願いをしてみました^^

外にでると、もの凄く繊細な、優しい雨が降り注いでいて、ビックリ！

以前、天橋立にある籠神社の奥宮“真名井神社”でも、この時と同じようなことがありました
祈っていると突然、限りなく繊細で、美しい雨が降ってきて、自身の願いは聞き届けられた。。。そう感じたのでした



開運?! わ~い!^^

そしてこちらが、那智大社礼殿です(奥に本殿があります)



主祭神は、“^{くまのふすみのおおかみ}熊野夫須美大神”

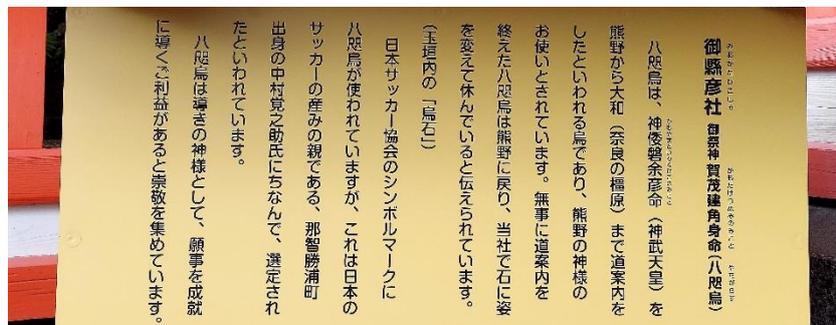
主祭神は熊野夫須美大神(くまのふすみのおおかみ、イザナミノミコト)
新抄格勅符抄(大同元年 806 年)には、古名として熊野牟須美神とあるように

夫須美(ふすみ)とは「むす」という生成発展を意味する言葉であり、同時に「結(むすび)」という意味を持っています。
このため、かつては「結宮(むすびのみや)」という通称で呼ばれていました。

自身が学んでいる“アセンション”とは、宇宙の本質であり
究極には、一なる至高の根源(究極の愛の源)への回帰であり、あらゆる全ての統合です
熊野三山の最終地点が、“結宮”であったことに、感動を覚えます



これまでのすべてに感謝のお礼を述べ、顔をあげると、目に飛び込んできたのがこちらの標識です
矢印の示す先にあったのは、八咫鳥(やたがらす)・御縣彦社(みあがたひこしゃ)



「無事に道案内を終えた八咫鳥は熊野に戻り、当社で石に姿を変えて休んでいる——」

この言葉にホッと、何故かウルウルしてきました。。。昨日までのモヤモヤが吹っ飛んでいく気がしました
もしかしたら、あの三羽のカラスさんが、私に言いたかった事なのでは？

私達は、神武天皇・神功皇后(太陽神界)の願いと志を引き継ぎ
日本から、根源の愛と光を∞に拡大していく、日の本の神の子=皇人、神人の卵(候補生)です!!
カラスさんへ! 永い年月にわたる沢山の守護と導きを、本当にありがとうございました! <(_)>
さあ、カラスさんといっしょにかえりましょ〜 故郷、根源母神の所へ^^



那智の滝前のバス停へと石段を降りていくと、あら、可愛い〜! 鹿の親子連れ? のようです
もっと近くで撮りたいとモタモタしているうちに、いなくなっていました
落ちてくる木の葉が生き物にみえ、地上にいるのはみんなおんなじ、大切な命なんだ… 全てが愛しく感じられます

熊野三山にお別れをして、今度は高野山です
那智の滝から6時間程かけて、宿泊先の天野に向かいました
途中白浜駅から和歌山へと向かう列車は、通路を挟んで向かい合わせに椅子が並ぶ形態だったので
前方は、和歌山湾を臨む大パノラマ! 地球は、本当に美しいのです
海はインナーアースへの入口? その中心には、“龍宮城”とも呼ばれる至福の楽園=“シャンバラ”があるとされます^^



ホテルでは、最寄りの笠田駅までの出迎えと、翌日の高野山への送迎サービスがあり、有難かったです^^
静かな田園地帯で、「不思議なんです、このトンネルを抜けると全く世界(気候)が違うんですよ」と、
運転手さんがおっしゃった通り、本当にトンネルを抜けると、大雨になっていて、ビックリ?! (すぐにやみましたが^^)

目に見えない境界線（龍神さんのなわばり？笑）が、あるのかもしれませんが
チェックインを済ますとすぐに、徒歩で20分ほどの所にある、“丹生都比売神社”へと向かいました



赤い鳥居、丹生都比売の「丹」は、朱砂（朱色の硫化水銀）の事で
奈良時代、東大寺廬舎那仏像の金メッキ塗装に用いられる等、当時の日本では
金や銀よりも価値があり、水銀を制するものが天下を制すると言われる程、貴重なものであったようです
また、不老不死の薬の原料にもなつたとされます
弘法大使空海は唐に渡った際に、銅や水銀の見つけ方を学んできたと言われ
処世術に長けていたとされる空海が、丹生都比売を大切にす理由の一つであったのかもしれない



 丹生都比売神社のご祭神は、「四所明神」とも総称され
【第一殿】丹生都比売大神（にうつひめのおおかみ）
【第二殿】高野御子大神（たかのみこのおおかみ）丹生都比売の御子

【第三殿】大食都比売大神(おおげつひめのおおかみ) 氣比神宮(福井県)からの勧請

【第四殿】市杵島比売大神(いちきしまひめのおおかみ) 厳島神社(広島県)からの勧請

楼門の左手の方に回ると、四殿を見る事の出来る場所があります



《ご由緒》 (ホームページより)

紀ノ川より紀伊山地に入り、標高四五〇メートルの盆地天野に当社が創建されたのは古く、
今から千七百年前のことと伝えられます。

天平時代に書かれた祝詞である『丹生大明神告門』によれば、

丹生都比売大神は、天照大御神の御妹神さまで稚日女命とも申し上げ、

神代に紀ノ川流域の三谷に降臨、紀州・大和を巡られ農耕を広め、この天野の地に鎮座されました。

また、『播磨国風土記』によれば、神功皇后の出兵の折、丹生都比売大神の託宣により、

衣服・武具・船を朱色に塗ったところ戦勝することが出来たため、

これに感謝し応神天皇が、社殿と広大な土地を神領として寄進されたとあります。

丹生都比売大神の御子、高野御子大神は、密教の根本道場の地を求めていた弘法大師の前に、

黒と白の犬を連れた狩人に化身して現れ、高野山へと導きました。

弘法大師は丹生都比売大神より、ご神領である高野山を借受け、山上大伽藍に大神の御社を建て守護神として祀り、

真言密教の総本山高野山を開きました。

これ以降、古くからの日本人の心にある祖先を大切に、自然の恵みに感謝する神道の精神が仏教に取り入れられ、

神と仏が共存する日本人の宗教観が形成されてゆきました。

「丹生都比売大神の御子、高野御子大神は、弘法大師の前に黒と白の犬を連れた狩人に化身して現れ、高野山へと導いた」

とあり、白と黒の犬から、陰陽のマーク、太陰大極図が連想されます



「霊と体」、「東洋と西洋」、「神界と仏界(天界)」、「白龍と黒龍」、「男性性と女性性」等、様々な陰陽二極の型があり

空海は、その統合の学びのために、聖なる地、高野山へと導かれたのではないのでしょうか？

また“神功皇后”の名前が見られることから、丹生都比売大神には、太陽神界の女性性の側面を

熊野大神には、神武天皇系、太陽神界の男性性の側面を感じ

中今、この二者が統合された究極の母性性 = “**根源天照皇太神**”が核心となって創造されていく

新しい宇宙 (NMC)、そして新しい地球への誘いを感じます^^

弘法大師空海が開いた真言密教のご本尊は、大日如来 = “太陽” です
空海が見ていたのは、中今の時空であり、私が空海に感じたのも、“根源太陽 (究極の愛)” ではないでしょうか^^

あらゆるすべてとの一体感、幸せの中で眠った翌朝早く、もう一度丹生都比売神社へ出かけました



背後の景色が、回ってる?。。。

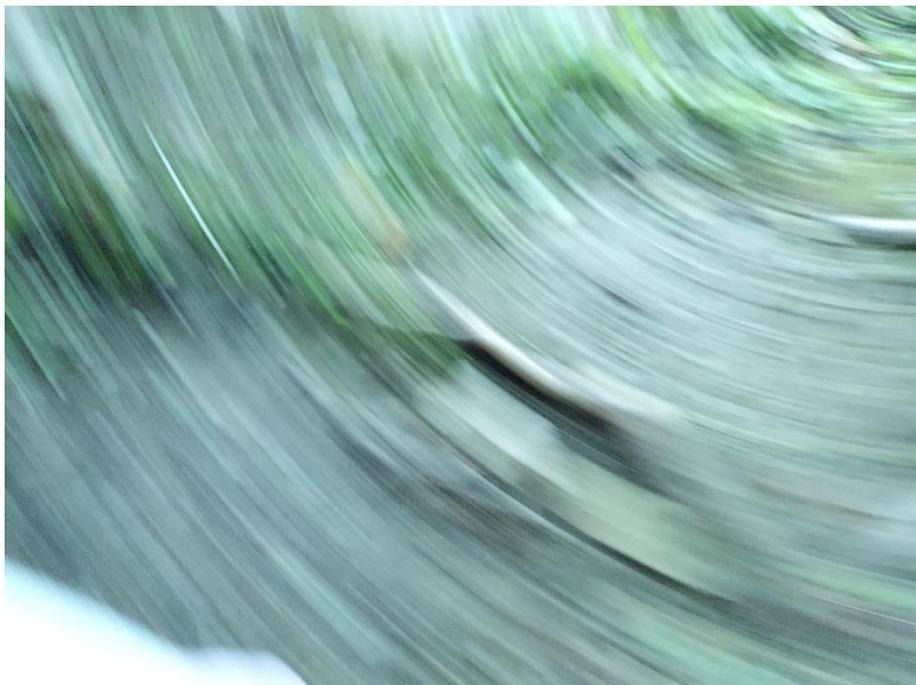
楼門の向こう側にある本殿も、回転している(渦巻の中にいる)ように見えます



一瞬真っ暗になり?



次に写っていたのが、こちらです



やっぱり？！

私には、写真を加工する技術はありません

ただ、不思議なエネルギーの渦？が写っていたとしか、説明出来ません(^
常識では考えられない、人知を超えた大きな力が存在する(これを龍神とも呼ぶ?)事は、確かなのだと思います

いよいよ、高野山へ向かって出発です！(^)!

ホテルの方に送っていただいたのは、高野山の広い敷地の中の、“奥の院”と呼ばれる所で

高野山信仰の中心であり、弘法大師御入定の聖地です

敵味方、宗教、国籍の別を問わず、20万基を超える墓石や、祈念碑、慰霊碑が立ち並ぶ杉木立を抜けた先にあり

空海がその全てを抱いている——真言密教の懐の大きさと、空海の愛の深さを物語っているようです

帰る途中、なんだか重々しい空気。。。自身はどこを見て歩いていたのか？(失礼な事に)

日に2回の食事「生身供(しょうじんぐ)」を運ぶ僧の列が、間近に迫っていることに気付き、ドキッ！？

あわてて横道へと逸れ、控えましたが

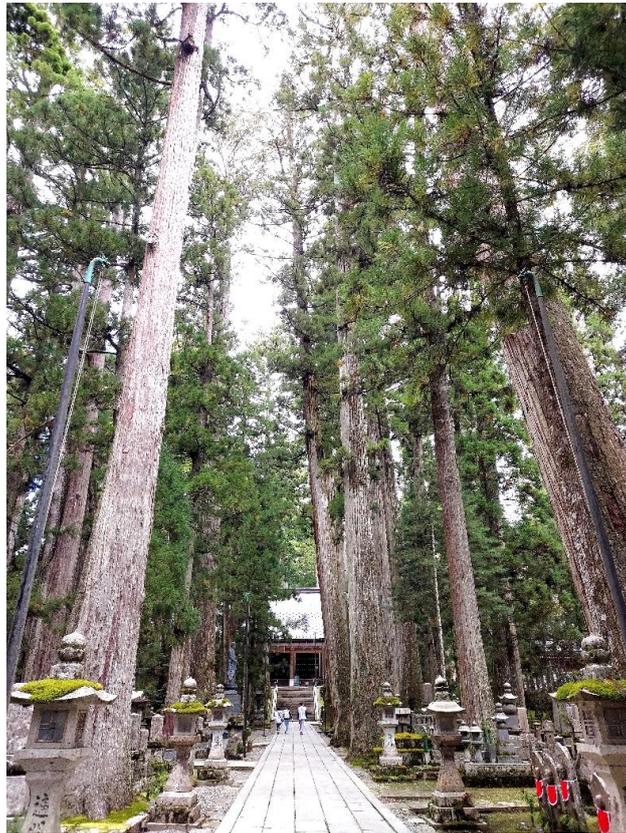
今もなお、生きつづけているとされる弘法大師空海を、真に実感しました

都を離れ高野山にこもって「自分は永遠の禅定に入り、弥勒菩薩のもとで皆を見守る」と告げ

予言通り入定されたとの事です



ネットから引用させて頂きました <し>



(院内の撮影は禁止されています)

空海と言えば、高野山金剛峯寺、最澄は比叡山延暦寺と習いました^^

ここにも“陰”と“陽”の二極、2つの世界観があるように思われます

一般庶民？の感覚ですが、空海は主に、目に見えない霊的世界、“密”“胎藏界”を伝える役割

最澄は主に、目に見える物質的世界“顕”“金剛界”を示す役割があったのでは？と

自身にとって、二つは同じもの、“愛”と“光”（本質とその輝き）であり

両方揃って顕現する世界が、これからの地球であり、“弥勒の世”（地上天国）なのだと思います^^

真に空海は、今私達と共にあります

全ての人を、愛と光の源、根源へと導くために、地上の私達の中に生きています！

私は、ここに呼んでいただいた喜びと感謝、ポータルとして働く決意を述べ、金剛峯寺へと向かいました^^



宇宙仏界、マゼラン銀河のイメージ。。。？



こちらには、肖像画なども飾られていて、生きた人としての空海を、より身近に感じることができました^^



空海は、まさに
空と海のエネルギー！
ステキ♡^^

仏様は、人の姿に似ている。。

大自然(大宇宙)そのものである神と、あまりにもかけ離れてしまった私達人には、神は想像しづらく、理解しがたい…
その神と人とを、つなぎとめてくれた愛の存在が仏様、仏界(=天界)なのだと、私は思います

新GWBHは、NMCの核心である根源天照皇太神と私達をつないでくれる、神化(進化)の為のシステムであり
地上の私に想像出来るのは、ほんの小さな部分でしかないのだと思います

高度なアセンションを遂げた人類の大先輩、偉大なるアセンディッド・マスター方の集まりでもあります
空海は新Gマスターとして、あらゆる全ての統合、根源への回帰の為に
自身を今回の旅へと導いてくれたのだと思います^^

マスター方と地上でお会いできる日が、楽しみで仕方がありません！！！！

(『根源アセンションプロジェクト HAKU(hamu) SUN』に、新しいお部屋をご用意いたしました、笑)

龍神さん、カラスさんの奥には“素戔鳴神”=地球神(分身)が見え、更にはその奥には“天照大神”=太陽神がありました
そして中今、“根源天照皇太神”の元で皆が一つ！なのだと思います^^v OK!!!
バチバチバチバチー！

和歌山から石川の自宅へと帰る途中には、地球の子宮とも言われる琵琶湖があります
写真は上手く撮れていませんが、雲と湖面の間に、美しい虹の橋がかかり、天地の喜びを感じました^^



この3日間の出来事は、本当にあつた事かしら。。。 (私のただの妄想?)

翌朝目覚めてビックリしたのが、窓の外の光景です！



空一面に群れ広がる雲が、薄紅色をしていて、喜びに頬染める龍(流)神さんのようです
空に、花丸印が見えた気がします^^

楽しかったな～～ あらゆる全てに∞感謝！ 2022.9.9 皇美・美流=美(愛)の流